

屋久島山岳部の環境保全事業に寄附金を活用

屋久島の山岳部にある避難小屋のトイレは、現在も汲み取り式トイレとなっており、かつて、トイレのし尿は、トイレ周辺に埋設されていました。

しかし、世界自然遺産登録以降、トイレの利用が増加していることで、土壌分解が追いつかなくなり、臭いやハエが発生し、生態系への影響や飲料水等の水環境への負荷が懸念されています。

このことから、屋久島町も構成員となっている屋久島山岳部利用対策協議会では、平成20年4月から、この避難小屋トイレのし尿を里地の処理施設まで人力で運搬する取組を実施しています。

この人力によるし尿の運搬は、主に利用者から「屋久島山岳部保全募金」を募り実施していますが、平成27年度において、14,756,183円のご協力をいただいたものの、このし尿の搬出のほか、携帯トイレの普及などに係る支出額は、15,472,157円となり、赤字の収支となりました。

(過去の収支状況はこちら

<https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yakushima/hozen/yakushimasangakubuhozenbokin.html>)

また、すべてのし尿を搬出できず、避難小屋の周辺にポリバケツでし尿をため置きしている状況が続いています。



淀川小屋トイレにため置きしているポリバケツの状況

このことから、ご寄附いただいたいすき基金を活用させていただき、高塚小屋トイレ（縄文杉近く）のし尿960L（1,526,352円）と、淀川小屋トイレ（宮之浦岳に向かうルート）のし尿500L（462,500円）を搬出しました。

これにより、左に示すため置きの状況が改善され、周辺の景観を良好な状態にすることが出来ました。

ありがとうございました。

世界自然遺産登録地域の価値を損なわないため、関係者が協力し各種の自然保護に取り組んでいますが、課題が山積しています。今後とも、屋久島町が取り組む環境保全活動に対し皆様からのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



人力による運搬の様子



運搬用のポリタンク



汲み取り作業の様子